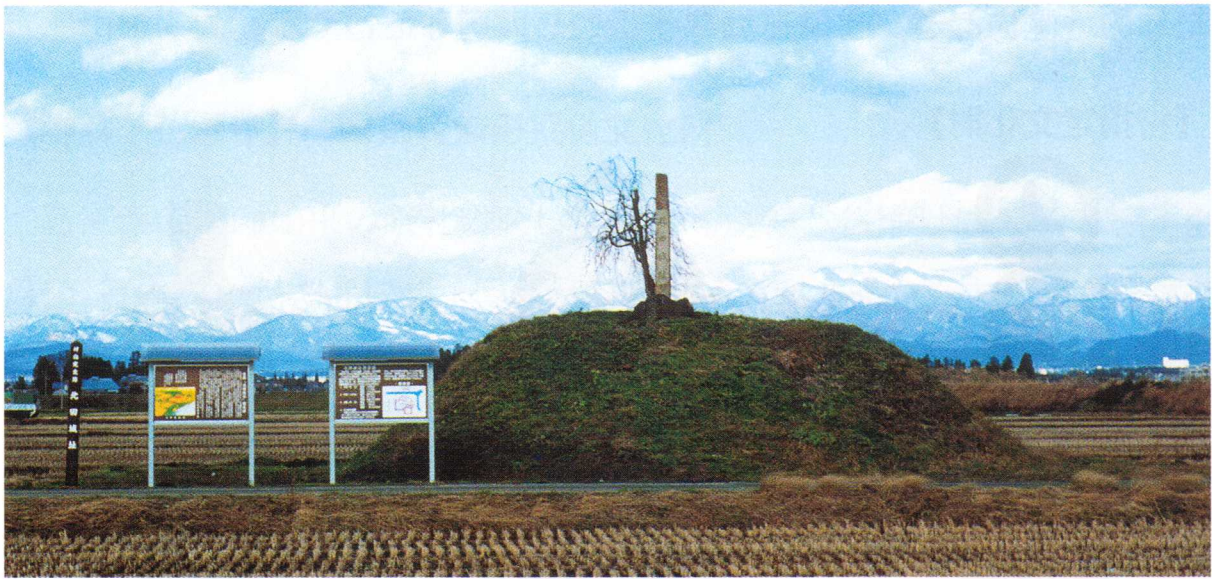


【北田城址^し】



北田城は、北田集落の北方約1km、^{にっぽし}日橋川と^ゆ湯川の合流点の南西一帯の河原より、5m高い丘上にあります。佐原次郎^{ひろもり}広盛が築いて住み、^{きただ}北田氏と称しました。（「会津古墨記」による）

北田城絵図

史跡「北田城址」案内図

北田城址は、会津における数少ない中世鎌倉時代初期の古城址で、耶麻郡猪苗代町の龜ヶ城址、喜多方市慶徳町の新宮城址とともに、中世会津の歴史を語る上に欠くことのできない存在価値をもつ城址である。

北田城は、建久四年（一一九三年）佐原次郎廣盛が築いて居住したところである（会津古墨記）。廣盛は佐原憲遠江守盛連の次男で北田氏を称した。その子孫が二一六年間代々ここに居を構え勢力を振るったが、応永十六年（一四〇九年）六月三日、六代上総介政泰に至り幕名盛政に攻め滅ぼされた。（塔寺長帳）

城址は、湯川と旧日橋川との合流点の南西高台であり、当時は北に新宮城、南に小高木城（会津若松市）があり会津の平地における要害の地であった。

現在は、北田城本丸の西南の一部であり、この土塁は、昭和五十八年に行った記録保存調査の際に、最初の小さな土塁に土を盛り、補強されたものであることが発見された。（北田城址調査報告書）

壘上に建っている碑は、昭和三十五年四月有志によって建立されたものであり、次の詩が刻まれている。

二水榮回擁古城
残壁僅存一株櫻
凝眸沃野中心地
霞映春江夕日清

蒼龍真人賦
会津藩士で戊辰戦争当時
蒼龍隊長の樋口真人氏
湯川村教育委員会